

平成 28 年度 神戸大学附属中等教育学校 授業研究会のご案内 (第 2 次)

研究主題	「グローバルキャリア人としての資質・能力を育成するカリキュラム開発と評価方法の研究—汎用的能力論と新学習指導要領の方向性を踏まえて—」									
<日時>	平成 29 年 2 月 4 日(土)	<場所>	神戸大学附属中等教育学校	〒658-0063	神戸市東灘区住吉山手 5 丁目 11 番 1 号					
<主催>	神戸大学附属中等教育学校		<後援>	兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会						
<タイムスケジュール>										
受付	全体会	公開授業 I	休憩	公開授業 II	休憩	研究協議	休憩	講演会	終了	
9:00	9:30	10:10	11:00	11:15	12:05	13:00	14:30	14:45	16:00 16:15	
●講演会 秋田 喜代美 氏 (東京大学大学院教育学研究科) 「演題：中等教育におけるグローバルキャリア人の育成：深い学びを目指す授業」										

公開授業

教科	時	学年	授業者	授業紹介	教科の研究テーマ	指導助言者
国語	II	2年	【国語】 小嵜 麻由	【協同学習で読みを深める】 「読むこと」の学びを深めるために、協同学習の考え方を取り入れて指導します。一人ひとりが「読む」視点をもって読むことで、深い読みをめざします。	深い学び —協同を通して学びを深める—	目黒 強 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
社会	I	3年	【社会】(公民分野) 上村 幸	【政府の役割と国民の福祉】 財政に関する概念的知識を習得しつつある生徒が、持続可能な社会をキーワードに、今後の財政の姿について思考する授業を展開します。	社会的な見方・考え方を育む 授業実践 —グローバルな時空間認識の育成を通して—	三田 耕一郎 (神戸市教育委員会)  吉永 潤 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授)
	II	5年	【世界史B】 小林 理修	【「中世」について考える】 4年生(高校1年生)の「歴史基礎」で培った、個別の歴史事象と抽象的概念を総合的にとらえる力をもとに、世界史上の「中世」の特徴と現代社会とのかかわりをクラスで考え、歴史的な見方・考え方を涵養する授業を提案します。		
数学	I	1年	【数学】 中時 貴弘	【資料の整理とその活用】 ヒストグラムや代表値などの統計的な手法を用いて資料の傾向を読みとり、それを基に生徒が学び合う小集団学習を行います。統計的リテラシーを育む授業展開を提案します。	数学的活動を通して、創造的に課題解決する力を育む 授業展開の工夫	高橋 謙嗣 (神戸大学名誉教授) 佐伯 昭彦 (鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授)
	II	4年	【数学A】 西澤 一夫	【確率の利用】 カードゲームにおいて確率をもとに戦術を考えます。小集団で作戦を立て、発表し、ベストな戦術は何かを考える授業をつくります。		
理科	I	1年	【理科】 西田 育代	【力による現象】 身近な物理現象を対象にして探究活動を行います。また、言語活動を通して考察をすすめることにより、生徒が科学的に思考し表現する力を高めさせます。	サイエンスリテラシーの育成を目指した中等教育6年間カリキュラムの構築とその実践	佐藤 春実 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
	II	5年	【化学】 安田 和宏	【化学反応の速さと平衡】 日常に見られる事例を挙げ、化学平衡を数的に扱う授業を展開します。さらに、生徒自らが科学的に考察する言語活動を含む授業形態を提案します。		
音楽	II	1年	【音楽】 森瀬 智子	【創作から育む音価と音高感覚】 コードとカノンを用いて作品を創作し、歌声で発表します。創作の過程で音価と音高感覚を育む方法を提案します。	生涯にわたり多様な音楽に親しむことのできる音感の育成	斉田 好男 (神戸大学名誉教授)
保健体育	I	4年	【体育】 岡井 理香	【2020年東京五輪に向けたオリンピックスタディーズ】 オリンピックをとりまく一連の事象について多角的に考察・分析し、スポーツの多様性を学ぶとともに、一人ひとりにとってのマイスポーツを考えます。	発達段階に応じたマイスポーツ獲得を目指す授業実践	高田 義弘 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
	II	3年	【体育】 板羽 淳平	【バドミントン—分析するスポーツ—】 シャトルの軌道をアプリケーション(タブレット端末)を利用し、動画解析することで理論的かつ実践的なフォームを身に付けることを目指します。		
家庭	I	3年	【家庭科】 金田 理子	【ライフデザインについて考える】 これからの人生の中で起こりうる事を見通しながら、その時にどのような選択をするのか、どうすれば自立した生活をおくることができるかを小集団で話し合いながら考えていきます。	グローバルキャリア人として、ライフスタイルや生き方を考える	朴木 佳緒留 (神戸大学名誉教授、京都教育大学監事)
情報	II	5年	【情報】 米田 貴	【ツールとしてのプログラミング】 「読む」「書く」「計算する」といった活動と同様に、「プログラミングをする」を問題解決のツールとして活用できるようになることを目的とした授業形態を提案します。	問題解決のツールとしてプログラミングを活用する学習活動	伊藤 一成、吉田 葵 (青山学院大学 社会情報学部准教授、同助教)
英語	I	3年	【英語】 興津 紀子	【生徒の言語使用を促進する英語授業】 中学段階での「生徒の言語使用を促進する授業」を考えるにあたって、テーマ(平等)に基づく単元を設定し、教科書本文(+α)の習熟・定着を図るための活動、またそれを活用した自己表現活動、評価のありかたについて考えます。	言語使用を高め、思考力育成につながる英語授業の検討—「論理性」のある生徒の育成に向けて—	長沼 君主 (東海大学国際教育センター准教授)  中井 弘一 (大阪女学院大学教授)
	II	4年	【コミュニケーション英語I】 泉 美穂 横山 安津子	【5技能統合型のテーマ学習を通じた思考力の育成】 昨年の取組に引き続き、思考力の中でも論理的思考力に焦点をあて、その育成に向けた受信と発信の工夫について考えます。本授業ではCLILの概念に基づくテーマ単元学習を核にした取組をAdvanced・Standardクラス別に紹介します。		
食育	II		【栄養】 永野 和美	【持続可能な社会における食育のありかた】 給食時間の取組を中心に教科、家庭や地域との連携を発表するとともに、今年度1~6年までの全学年で実施した食事調査の結果を基に、これからの食育のあり方を提案します。	食の自立をめざす生徒の育成—食事調査を通して考えるこれからの食育—	加藤 佳子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授)
総合	I	5年	【卒業研究】 中垣 篤志	【卒業研究中間発表に向けて】 生徒が取り組んでいる卒業研究の発表について、生徒同士の対話や担当教師のかかわり方も含め紹介します。	6年一貫 Kobe プロジェクトの実践—汎用的能力育成の要として—	林 創 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
	II	2年	【探究入門】 吉田 智也	【奈良学の取組み】 「奈良」をフィールドに、探究活動として取り組んだ生徒の調査・発表活動について、生徒自身が紹介します。		